

殺虫剤

協友

スミチオン®乳剤

MEP 50.0%

種類名／MEP乳剤

農林水産省登録／第21949号

毒性／普通物*

有効年限／5年

危険物表示／4－2石

包装／100mℓ×60、500mℓ×20、5ℓ×4

特 長

- 有機リン系殺虫剤です。
- 作用機作はコリンエステラーゼの活性を阻害し、殺虫作用を示します。
- 害虫に対して接触効果、食毒効果があります。
- 植物に浸透性があります。
- 無人航空機による散布に使用できます。
- WCS用イネにも使用できます。

適用害虫と使用方法

使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
稲	ニカメイチュウ第1世代	1000～2000倍	60～150 ℓ	収穫21日前 まで	本剤 2回 MEP剤 3回 「種もみへの処理 は1回、育苗箱散 布は1回、本田で は2回」	散布
	ニカメイチュウ第2世代 サンカメイチュウ第3世代	800～1000倍				
	ヒメトビウンカ カメムシ類 イネツトムシ イネシガラセンチュウ イネドロオイムシ アブラムシ類 アワヨトウ	1000倍				
	イネハモグリバエ	1000～2000倍				
	イネヒメハモグリバエ	2500倍				
	フタオビコヤガ	2000～4000倍				
	イネシガラセンチュウ	1000倍	—	は種前	本剤 1回 MEP剤 3回 「種もみへの処理 は1回、育苗箱散 布は1回、本田で は2回」	6～72時間 浸漬
		100倍				専用の種子消毒機を用いて乾燥種粉重量の3%の量の希釈液を種粒に吹き付け処理又は塗沫処理
	ニカメイチュウ ヒメトビウンカ カメムシ類 イネハモグリバエ イネヒメハモグリバエ フタオビコヤガ イネツトムシ	30倍	3 ℓ	収穫21日前 まで	本剤 2回 MEP剤 3回 「種もみへの処理 は1回、育苗箱散 布は1回、本田で は2回」	空中散布
	ニカメイチュウ カメムシ類	8倍	800mℓ			無人航空機 散布
		300倍	25 ℓ			散布

(つづく)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
稲 (箱育苗)	イネシנגアレセンチュウ	1000倍	育苗箱 〔60×30×3cm.〕 使用土壌 約5ℓ 1箱当り500mℓ	硬化期～ 移植前日	本剤 1回 MEP剤 3回 〔種もみへの処理 は1回、育苗箱散 布は1回、本田で は2回〕	育苗箱の 上から 均一に散布 する
麦 類 (大麦、小麦 を除く)	アブラムシ類 アウヨトウ ムギキモグリバエ		60～150 ℓ	収穫14日前 まで		散布
	ムギアカタマバエ	30倍	3 ℓ			空中散布
	ヒメトビウンカ					
	アブラムシ類	8倍	800mℓ			無人航空機 散布
大 麦	アブラムシ類 アウヨトウ ムギキモグリバエ	1000倍	60～150 ℓ	収穫7日前 まで	本剤 1回 MEP剤 1回	散布
	ムギアカタマバエ ヒメトビウンカ	30倍	3 ℓ			空中散布
	ヒメトビウンカ					
		8倍	800mℓ			無人航空機 散布
小 麦	アブラムシ類	250倍	25 ℓ			
	アウヨトウ ムギキモグリバエ	1000倍	60～150 ℓ			散布
	ムギアカタマバエ	30倍	3 ℓ			空中散布
	ヒメトビウンカ					
	アブラムシ類	8倍	800mℓ			無人航空機 散布
とうもろこし	アワノメイガ カメムシ類 ツマジロクサヨトウ	1000倍	100～300 ℓ		本剤 4回 MEP剤 4回	
り ん ご	アブラムシ類	1000～ 2000倍	200～700 ℓ	収穫30日前 まで	本剤 3回 MEP剤 3回	散布
	ナシヒメシンクイ モモシンクイガ ハマキムシ類 ナシグンバイ	1000倍				
	クワコナカイガラムシ	1500倍				
	アメリカシロヒトリ	1000倍				
な し (有袋栽培)	アブラムシ類	1000～ 2000倍		収穫14日前 まで	本剤 6回 MEP剤 6回	
	シンクイムシ類 ハマキムシ類 ナシグンバイ ナシホソガ ナシチビガ カメムシ類	1000倍				
	クワコナカイガラムシ	1500倍				
	アメリカシロヒトリ	1000倍				

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用流量	使用時期	総使用回数*	使用方法	
なし (無袋栽培)	アブラムシ類	1000～ 2000倍	200～700 ℓ	収穫21日前 まで	本剤 6回 MEP剤 6回	散布	
	シンクイムシ類 ハマキムシ類 ナシグンバイ ナシホソガ ナシチビガ カメムシ類	1000倍					
	クワコナカイガラムシ	1500倍					
	アメリカシロヒトリ	1000倍					
かき	ハマキムシ類 カキノヘタムシガ カキホソガ カイガラムシ類 カメムシ類 イラガ類 アメリカシロヒトリ ミノガ類若齢幼虫	1000倍		収穫30日前 まで	本剤 3回 MEP剤 3回 【樹幹処理は2回】		
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ(心折防止)	1000～ 2000倍		成虫発生初期 但し、 収穫3日前まで	収穫3日前 まで		本剤 6回 MEP剤 6回 【樹幹処理は1回】
	ナシヒメシンクイ モモシンクイガ ハマキムシ類 クワシロカイガラムシ カメムシ類	1000倍					
	クビアカツヤカミキリ						
	クワコナカイガラムシ	1500倍					
みかん	アブラムシ類	1000～ 2000倍		5 ℓ	収穫14日前 まで		本剤 5回 MEP剤 5回 【樹幹処理は1回】
	ハマキムシ類 カイガラムシ類 アザミウマ類 カメムシ類 カネタタキ ミカンツボミタマバエ ケシキスイ類 コアオハナムグリ フラーパラゾウムシ ミカンキジラミ	1000倍					
	ケシキスイ類 コアオハナムグリ アザミウマ類	10倍					
かんきつ (みかんを 除く)	アブラムシ類	1000～ 2000倍	200～700 ℓ		本剤 3回 MEP剤 3回 【樹幹処理は1回】	散布	
	ハマキムシ類 カイガラムシ類 アザミウマ類 カメムシ類 カネタタキ ミカンツボミタマバエ ケシキスイ類 コアオハナムグリ フラーパラゾウムシ ミカンキジラミ	1000倍					

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法		
大 粒 種 ぶ ど う	アブラムシ類 フタデンヒメヨコバイ ブドウスカシバ ブドウトリバ	1000～ 2000倍	200～700 ℓ	収穫21日前 まで	本剤 2回 MEP剤 4回 [収穫終了後から 萌芽までは2回、 萌芽後は2回]	散布		
	ハマキムシ類 ブドウトラカミキリ キンケクチブトゾウムシ成虫	1000倍						
	クワコナカイガラムシ	1500倍						
小 粒 種 ぶ ど う	アブラムシ類 フタデンヒメヨコバイ ブドウスカシバ ブドウトリバ	1000～ 2000倍		収穫90日前 まで				
	ハマキムシ類 ブドウトラカミキリ キンケクチブトゾウムシ成虫	1000倍						
	クワコナカイガラムシ	1500倍						
お う とう	アブラムシ類	1000～ 2000倍		収穫14日前 まで	本剤 2回 MEP剤 2回 [樹幹処理及び 灌注処理は合計 1回]			
	ハマキムシ類 ナシゲンバイ アメリカシロヒトリ	1000倍						
う め	アブラムシ類	1000～ 2000倍			本剤 2回 MEP剤 2回			
	アメリカシロヒトリ ハマキムシ類	1000倍		成虫発生初期 但し、 収穫14日前まで				
	クビアカツヤカミキリ							
オ リ ー ブ	オリーブアナアキゾウムシ	50倍	0.3～3 ℓ / 樹	収穫 21日前 まで	本剤 3回 MEP剤 3回	樹幹散布		
オ リ ー ブ (葉)				収穫120日前 まで				
い ち ょ う (種子)				収穫60日前 まで				
く り	モモノゴマダラノメイガ	8倍	3 ℓ	収穫14日前 まで	本剤 4回 MEP剤 4回 [樹幹処理は1回]	空中散布		
い ち ご	アブラムシ類	2000倍	100～300 ℓ	収穫前日 まで	本剤 2回 MEP剤 2回	散布		
ほうれんそう	ホウレンソウケナガコナダニ	1000～ 2000倍		収穫21日前 まで				
て ん さい	テンサイトビハムシ	1000倍						
に ら	ネダニ類		3 ℓ / m ²			本剤 1回 MEP剤 1回	株元灌注	
ね ぎ	アブラムシ類	1000～ 2000倍	100～300 ℓ	収穫14日前 まで	本剤 2回 MEP剤 2回	散布		
	アザミウマ類	700～ 1000倍						
	ネギコガ	1000倍						

(つづく)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法		
こ　ぼ　う	アブラムシ類 フキノメイガ	1000～ 2000倍	100～300 ℓ	収穫14日前 まで	本剤 MEP剤 2回 2回	散布		
た　ま　ね　ぎ	アブラムシ類	700～ 1000倍		収穫21日前 まで				
	アザミウマ類			収穫前日 まで	本剤 MEP剤 5回 5回			
ト　マ　ト	アブラムシ類 オオニジュウヤホシテントウ	2000倍						
な　　　　す	アブラムシ類 テントウムシダマシ類	1000～ 2000倍					収穫3日前 まで	本剤 MEP剤 6回 6回
	アブラムシ類							
き　ゅ　う　り メ　　ロ　　ン し　　ろ　　う　　り	アザミウマ類	1000倍		収穫14日前 まで	本剤 MEP剤 3回 3回			
す　　い　　か	アブラムシ類	1000～ 2000倍					収穫14日前 まで	本剤 MEP剤 3回 3回
	アザミウマ類	700～ 1000倍						
か　ぼ　ち　ゃ	アブラムシ類	1000～ 2000倍		3 ℓ	収穫21日前 まで		本剤 MEP剤 4回 4回	空中散布
	アザミウマ類	700～ 1000倍						
だ　　い　　す	マメシンクイガ ダイズサヤタマバエ シロイチモジマダラメイガ マメヒメサヤムシガ カメムシ類	20倍	800mℓ	収穫21日前 まで		本剤 MEP剤 4回 4回		無人航空機 散布
	ダイズサヤタマバエ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤムシガ カメムシ類 ウコンノメイガ マメシンクイガ	8倍						
	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ ウコンノメイガ マメハンミョウ	1000倍	100～300 ℓ					散布
	アブラムシ類	1000～ 2000倍						
	マメシンクイガ	1000～ 1500倍						
	豆　　　類 (種実、但し、 だいす、あ ずき、いん げんまめ、 そらまめを 除く)	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ						
アブラムシ類		1000～ 2000倍						
マメシンクイガ		1000～ 1500倍						

(つづく)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法												
未 成 熟 そ ら ま め	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ	1000倍	100～300 ℓ	収穫3日前 まで	本剤 MEP剤 3回 3回	散布												
	アブラムシ類	1000～ 2000倍																
	マメシンクイガ	1000～ 1500倍																
豆 類 (未成熟、但し、えだまめ、さやいんげん、未成熟そらまめを除く)	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ	1000倍		収穫21日前 まで														
	アブラムシ類	1000～ 2000倍																
	マメシンクイガ	1000～ 1500倍																
え だ ま め	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ ウコンノメイガ	1000倍						収穫21日前 まで										
	アブラムシ類	1000～ 2000倍																
	マメシンクイガ	1000～ 1500倍																
いんげんまめ	シロイチモジマダラメイガ インゲンマメゾウムシ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ インゲンテントウ	1000倍									収穫21日前 まで							
	アブラムシ類	1000～ 2000倍																
	マメシンクイガ	1000～ 1500倍																
さやいんげん	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ インゲンテントウ	1000倍												収穫21日前 まで				
	アブラムシ類	1000～ 2000倍																
	マメシンクイガ	1000～ 1500倍																
あ ず き	アズキノメイガ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 ナミハダニ マメヒメサヤムシガ マメホソクチゾウムシ	1000倍															収穫21日前 まで	
	アブラムシ類	250倍	25 ℓ															
		1000～ 2000倍				100～300 ℓ												
マメシンクイガ	1000～ 1500倍																	

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法	
そらめめ	アブラムシ類 テントウムシダマシ類	1000倍	100～300ℓ	収穫3日前 まで	本剤 MEP剤	3回 3回	散布
ばれいしょ		250倍	25ℓ		本剤 MEP剤	6回 6回	
		1000倍	100～300ℓ		収穫14日前 まで	本剤 MEP剤	
収穫7日前 まで	本剤 MEP剤			5回 5回			
うどん	根株養成期 但し収穫 150日前まで			本剤 MEP剤	4回 4回		
	収穫14日前 まで			本剤 MEP剤	2回 2回		
	モロヘイヤ					マメコガネ アザミウマ類 アブラムシ類 カメムシ類	
わらび	ナガゼンマイハバチ	収穫90日前 まで					
らっきょう	ネダニ類	1000～ 2000倍	—	植付前	本剤 MEP剤	1回 3回	30分間 種球浸漬
	アザミウマ類	1000倍	100～300ℓ	収穫7日前 まで	本剤 MEP剤	2回 3回	
	アザミウマ類 ネギハモグリバエ	8倍	1.6ℓ				〔植付前は1回、 植付後は2回〕
せり	アブラムシ類	2000倍	100～300ℓ	親株養成期 但し収穫 45日前まで	本剤 MEP剤	2回 2回	散布
たらのき	センノカミキリ幼虫 ヒメシロコブゾウムシ	100倍	150～300ℓ	3～5月 株養成期			樹幹散布
茶	コカクモンハマキ チャノホソガ	700～ 1000倍	200～400ℓ	摘採21日前 まで	本剤 MEP剤	1回 1回	散布
	ミノガ類	1000倍					
まめ科牧草	ヨコバイ類 アブラムシ類 ウンカ類 ウリハムシモドキ ゾウムシ類	1000～ 2000倍	100～300ℓ	収穫14日前 まで	本剤 MEP剤	2回 2回	
	ムギダニ	1000倍					
いね科牧草	ヨコバイ類 アブラムシ類 ウンカ類 ウリハムシモドキ ゾウムシ類	1000～ 2000倍					
	ムギダニ アワヨトウ	1000倍					
飼料用 とうもろこし	アブラムシ類	2000倍			収穫30日前 まで		

(つづく)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*		使用方法	
セネガ	アブラムシ類	1000倍	100～300 ℓ	収穫14日前 まで	本剤 MEP剤	3回 3回	散布	
花き類・ 観葉植物	アオムシ バッタ類 ハマキムシ類 アザミウマ類			—	本剤 MEP剤	6回 6回		
ばら	アブラムシ類							1000～ 2000倍
	フラーバラゾウムシ	1000倍						
きく	アブラムシ類	1000～ 2000倍						
	フラーバラゾウムシ カメムシ類 ヨトウムシ類	1000倍		発生初期	—			
カーネーション	アザミウマ類 クロウリハムシ							
宿根かすみそう	ハモグリバエ類			—				
りんどう	ヒラズハナアザミウマ							
アスター	ウリハムシ							
ソリダゴ	カメムシ類							
スターチス	コガネムシ類							
シネリリア	シンクイムシ類							
斑入り アマドコロ	コウモリガ	500～ 1000倍	200～700 ℓ		移植前	本剤 MEP剤	1回 6回	30分間 根部浸漬
ききょう	ヨトウムシ							
樹木類	アメリカシロヒトリ	500～ 1000倍	200～700 ℓ	—	移植前	本剤 MEP剤	1回 6回	30分間 根部浸漬
	アブラムシ類 グンバイムシ類 フラーバラゾウムシ	1000倍						
		オオハリセンチュウ	500倍	—	移植前	本剤 MEP剤	1回 6回	30分間 根部浸漬
つつじ類	グンバイムシ類 ハマキムシ類	1000倍	200～700 ℓ	—	本剤 MEP剤	6回 6回	散布	
せんりょう	アザミウマ類 カメムシ類							
こでまり	カイガラムシ類							
しきみ	クスアナアキゾウムシ							
にしきぎ	ケムシ類							
しゃりんばい だいおうしょう	シンクイムシ類							
さかき	ハマキムシ類 サカキブチヒメヨコバイ			成虫発生初期	—			
さくら	クビアカツヤカミキリ							
さんごじゅ	ワタノメイガ			—	—			
げっきつ	ミカンキジラミ							
たばこ	ヨトウムシ	25～180 ℓ	収穫20日前 まで	本剤 MEP剤	1回 1回			

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*		使用方法
しちとうい	イネクロカメムシ	1000倍	60～150 ℓ	発生初期	本剤 MEP剤	2回 2回	散布
芝	シバツトガ スジキリヨトウ		0.3～2 ℓ / m ²		幼虫発生期	本剤 MEP剤	
	コガネムシ類幼虫		3 ℓ / m ²				
	シバオサゾウムシ						
桑	クワゾウムシ成虫	500～ 750倍	100～300 ℓ	成虫発生期			

作物名	適用場所	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	総使用回数*	使用方法
水田作物 畑作物 (休耕田)	ヨシ、オギ、ススキ、 セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が 優占している休耕田	カメムシ類	1000倍	60～150 ℓ	本剤 4回 MEP剤 4回	散布

使用にあたって

■使用上の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- イネシンガレセンチュウの本田における防除に使用する場合は、散布適期は出穂の頃であるので時期を失ないように散布してください。なお、効果を高めるためには出穂始めとその1週間後の2回散布が望ましいです。
- 水稻種子の吹き付け処理の場合は、専用の種子消毒機を使用し、乾燥種粒に均一に付着するように所定薬液を吹き付けて乾燥してください。なお処理後、長期間保存する場合には、薬液処理を行ったことを明記し、まちがいのないようにしてください。
- 本田の水稻に対して希釈倍数300倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用してください。
- クワゾウムシに対しては成虫が桑樹に集まる4月下旬から6月頃に散布してください。成虫の活動は長期間にわたるので発生状況に応じて追加散布してください。
- かきのミノガ類に使用する場合は、幼虫が大きくなると効果が劣るので若齢幼虫期に時期を失ないように散布してください。
- 果樹のカメムシ類に対しては発生に応じて所定使用回数以内で繰り返し散布してください。
- 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので散布液がかからないように注意してください。
- 空中散布・無人航空機散布に関する注意については「製品情報と注意事項」の見方、「空中散布、無人航空機(無人ヘリコプター等)散布・滴下に関する注意」をご参照ください。
- 本剤を希釈倍数250倍で散布する場合は、少量散布に適したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を利用してください。
- 牧草地に散布した場合は、散布直後の放牧はさけてください。
- まめ科牧草のアルファルファゾウムシに使用する場合は、幼虫発生期～成虫発生初期に散布してください。なお、防除適期等については病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- かんきつのミカンツボミタマバ工防除に使用する場合は、成虫の発生初期に樹冠部および主幹部を中心とした樹の内部・樹冠下の地表面に散布するのが効果的です。
- 芝のコガネムシ類幼虫に使用する場合は、散布液が土壌中に十分しみ込むようジョロ等で1㎡当り3ℓを散布してください。
- フラーバゾウムシおよびミカンキジラミに使用する場合は、植物防疫(事務所)、病害虫防除所等関係機関の指導のもとに実施してください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
 - ①ミツバチの巣箱およびその周辺に飛散するおそれがある場合は使用しないでください。
 - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけてください。

- ③関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。

- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合には、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、普及指導センター、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

■混用・薬害

- ボルドー液と混用する場合は散布直前に行い、できるだけ早く使用してください。ただし、その他のアルカリ性の強い農薬との混用はさけてください。
- りんご、なしの無袋栽培で幼果期の散布はサビ果が発生しやすいので水和剤を使用してください。
- ももの初期散布（5～6月）には薬害の出ることがあるので注意してください。
- 稲（箱育苗）のイネシングレセンチュウに使用する場合は下記の事項に注意してください。
 - ①発芽期～緑化期の使用は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
 - ②軟弱徒長苗、ムレ苗などの場合は薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
 - ③土壌が極端に湿潤な場合は使用しないでください。
- なしの早生赤種、りんごの旭およびその近縁種には薬害の出ることがあるので使用はさけてください。
- 宿根かすみそうに使用する場合、開花期には薬害を生じることがあるので、この時期の使用はさけてください。
- あぶらな科作物、さといも、ソルゴには薬害を生じるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布してください。
- ひのきに対しては個体によって落葉、枯損にいたるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布してください。
- ほうれんそうに使用する場合、幼苗期には薬害を生じるおそれがあるので注意してください。

■毒

- 蚕に対して影響があるので、給桑予定している桑葉にはかからないようにしてください。

■水産動植物への注意

- 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないでください。本剤を使用した苗は養魚田に移植しないでください。
- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 空中散布または無人航空機による散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意してください。
- 散布後は水管理に注意してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

■安全使用上の注意

- 誤飲などのないように注意してください。
- 解毒剤としては硫酸アトロピン製剤およびPAM製剤が有効であると報告されています。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないように注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。



- 使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。

- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中および使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 危険物第四類第二石油類に属するので火気には十分注意してください。

■貯蔵上の注意

- 密栓し、火気をさけ、直射日光のあたらない低温な場所に保管してください。

本資料の記載内容は2025年8月27日現在の登録内容に基づいています。